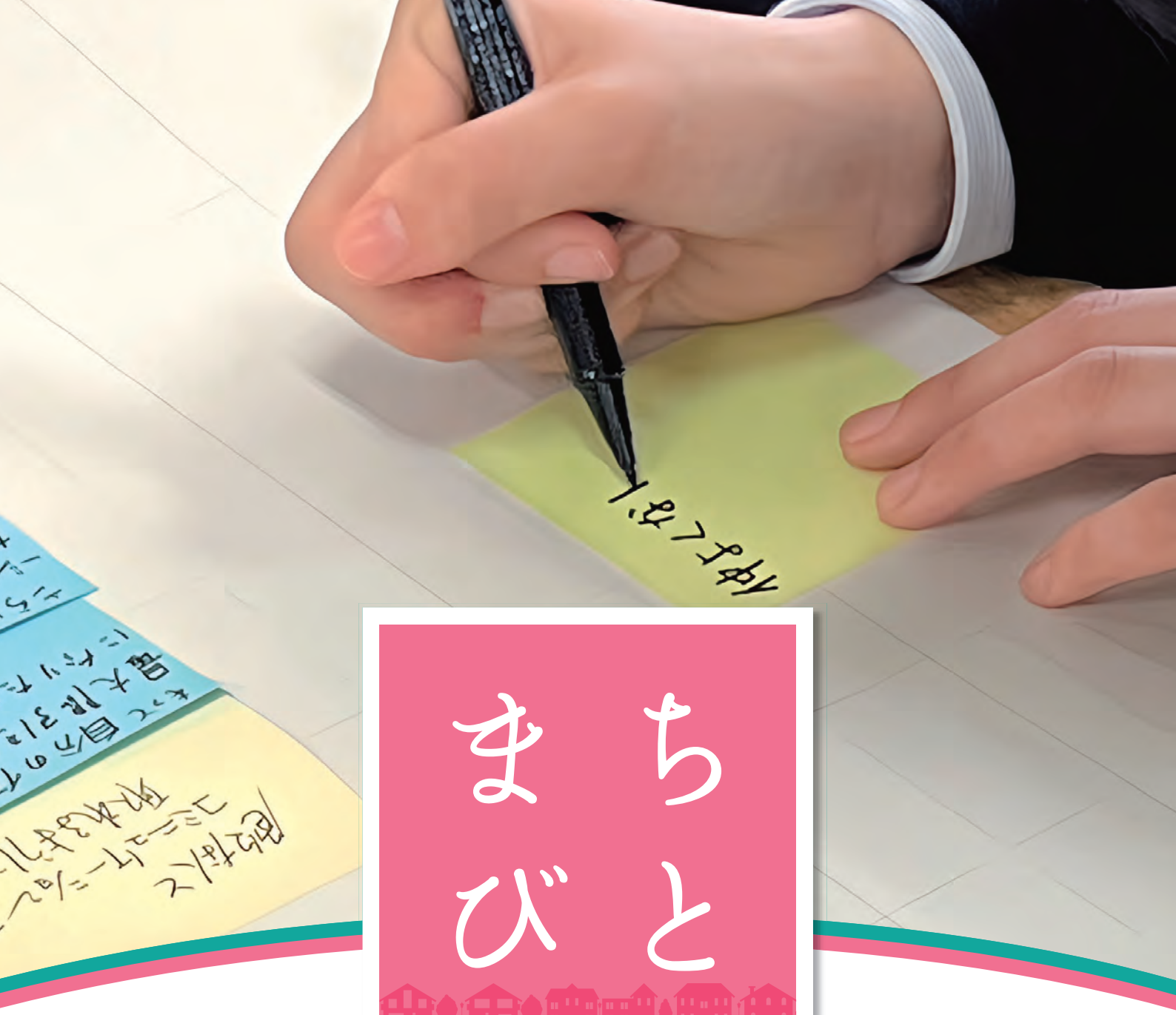

まちびと

— vol.6 —

日常のつながり＝お宝

ご近所同士の声かけやお茶飲み、趣味のサークルの集まりなど、
普段あまり意識していないようなつながりや支え合いが、
「地域のお宝」と呼ばれ注目されています。
このお宝広報誌「まちびと」では、つながりをテーマに皆さんの日常を取材し、
その暮らしの一部をご紹介していきます。

世代を超えてあったか交流

～幕別清陵高等学校　地域連携マイプロジェクト～

幕別清陵高等学校では、令和5年度より、生徒が地域企業や団体等と連携してプロジェクトに取り組みながら、様々な分野の学びを深めるプログラムに取り組んでいます。幕別社協では9名の生徒さんと一緒に、高齢者や地域の皆さんと交流することでつながりの大切さを学び、若い世代の経験を広く住民の皆さんと共有する活動を進めることになりました。

高校生が経験する『つながり』

私たちのプロジェクトは、人と人とのふれあいや集いの場が、高齢になった生活の中でどのように活かされているのかを学ぶことから始まりました。高校生自らが高齢者サロン等の集いの場を通して地域住民の生活に触れ、交流を体験し、つながりや支え合いの大切さを考えるため、高校生らしい感性を持って地域に出て行くことになりました。

地域の方たちとサロンで交流

訪問した3か所の高齢者サロンでは、どこも高校生の訪問を歓迎してくださり、はじめての経験に緊張する高校生も、サロンの皆さんに優しく接していただき、歌やレクリエーションを体験しました。サロンの皆さんからは、「いつも以上に明るい雰囲気になった」「若い人と一緒に話すとパワーがもらえる」と、今後のサロン活動のモチベーションアップにもつながる感想がありました。また、コロナ禍にあってもサロンの活動を継続したお話を伺い、この時期だからこそあらためて感じるつながりの大切さに触れることもできました。

若い世代の気づきを広げる

高校生の取り組みを地域の方々に知っていただく機会として、『令和5年度あったかつながり発表会』で事例発表を行い、参加者からは「高校生が高齢者の生活に興味を示してくれることが嬉しい」との感想がありました。また、「高校生と一緒に地域でできることに取り組んでみたい」と、活動のヒントとなる意見もあったことから、令和6年度は、高校生が主催する『清陵にこワクサロン』を3回にわたり開催しました。

高校生は、どのような人でも集うことができる場づくりについて話し合いを重ね、第1回は高齢者と高校生が一緒にプレーするミニバレーと茶話会、第2回は簡単な調理で交流できるよう、トルティーヤとクレープを作りながら食べる茶話会、第3回は世代を超えて楽しめるトランプゲームと茶話会で盛り上がりました。生徒による準備・進行は、慣れないながらも参加者と協力できたことで、貴重な経験になりました。

サロン参加者からは、「高校生と何かに取り組めるのはとても楽しい」「居心地がよかった」「高校生との協働で地域の活力が感じられた」との感想がありました。高校生からも、「多世代と関わってこそ身につく力がある」「話す機会を重ねるとだんだん楽しくなってきて過ごしやすい空気に変わった」「外に出てコミュニケーションを取る大切さに気づいた」「ちょっとした生きがいを持つことで明るい生活になることを知った」など、実際に人と交わる経験をしたからこその感想が聞かれました。

幕別社協としてこのプロジェクトを進めながら、学校を離れた様々な経験が、生徒一人ひとりの温かな人間性を育むこと、また、その背景には地域の皆さんとの関わりがあることに頼もしさを感じることができました。

つながりの大切さを若い世代へ伝える

昨今の高齢者サロンでは、体調や生活の変化を理由に参加者の減少が珍しくありません。だからこそ、次の世代につながる若い人たちに、集いの場の楽しさを分かってもらえるように努力したい、というサロン運営者の声も多く聞かれます。集う場に出ることで人とのつながりを持てるようになり、それがそれぞれの健やかな生活に結びつくことを、高齢者を含めた誰もが気づいていくことが大切なのではないでしょうか。

幕別社協では、今後も地域連携マイプロジェクトを通した高校生と地域の方々との交流が、『人と交わることの価値』を共に味わい、楽しめるきっかけとなるよう、誰にとっても住みやすい地域づくりを皆さんと一緒に考え、進めていきたいと思います。

地域連携マイプロジェクトを通して、幕別清陵高校2年生が全3回の『清陵にこワクサロン』を開催しました。
世代を超えて交流した高校生の感想と、地域のみなさんからのコメントを紹介します。

濱　葉音華さん
（2年生）

高齢者との交流活動を通じて、自分自身の成長を感じました。初めは緊張したけれど、回数を重ねる中で積極的に話しかけることができるようになったり、コミュニケーションの大切さを実感しました。高齢者の方達のお話を聞くことで、視野が広がったり、共感できる話題でもりあがったりして、とても楽しい活動だったと思います。

川﨑　楓さん
（2年生）

私がこの活動を通じて成長できたことは、他者との関わり方です。今までは口頭だけで伝える努力をしていましたが、身ぶり手ぶりを追加し、より一層相手に伝わるよう工夫をしたり、相手の目をしっかり見て話すことができるようになりました。

竹部　理世さん
（2年生）

サロンを通して、自分から積極的に動けるようになったと感じました。高齢者の方と関わるということで気を遣いすぎてしまったり、体の心配をしていたけれど、ゲームやお話をしてみて、とても元気で明るい方が多く参加してくれて、私も元気になれたし、素で話せるような場面もありました。

杉山　太一さん
（2年生）

一年間の活動を通して、僕が感じたこと、成長した所はたくさんあったと思います。そして、高齢者の方と交流する場は、とても貴重な機会になりました。僕はこの活動で変われたことが沢山あったと思います。自分から、発言や発表などできるようになりました。高齢者の方のあたたかみも感じることができました。

サロンをはじめてすぐは自分から声をかけられなかったり、話しかけてもらってもかたくなってしまったりしていたけど、サロンを重ねるごとにたのしく会話ができるようになったり、積極的に行動できるようになりました。初対面の人と話すのが苦手だったけど、この活動を通して、前よりは少し得意になった気がしたので嬉しかったです。

内山　妃彩さん
（2年生）

鼻和　実由さん
（2年生）

私はこの一年間の活動を経て、沢山の経験をし、学ぶことが多くありました。高齢者の方と関わることが増え、明るく元気な方が多かったため、私自身が元気をもらいました。また、自分たちでサロンを計画し、それを実行していく中で、高齢者の方が楽しんでいる様子や一緒になって笑い合えたり、とても親交できて良かったです。

僕は福祉に興味があり、高齢者の居場所づくりを選びました。最初の頃は緊張していて、僕にできるのかなと思っていましたが、倉重さんなどに優しく教えていただいたおかげで緊張もあまりなくなり、サロン開催も円滑に進むようになりました。僕はこの活動を通して行動力など様々な物を得ることができました。ありがとうございました。

久田　彬景さん
（2年生）

大河内　心優さん
（2年生）

活動を振り返ってみて、高齢者の方と関わることができてとても楽しかったです。最初は高齢者の人とお話ができるか不安だったけど、不安を忘れるくらい高齢者の人が話しかけてくれて、積極的に参加しやすかったです。自分の話だけじゃなくてアドバイスももらえて、楽しく話しつつ勉強にもなりました。良い経験ができました。

私は、プロジェクトを通して様々なことを一年の間で学びました。主に学んだことは、人とコミュニケーションを取ることの大切さです。初めてサロンに参加した時は、緊張して自分から話せなかったけど、何回かサロンに行ったり、自分たちでサロンを行うたびに、進んで高齢者の方や様々な人たちと会話することが出来ました。

鈴木　涼花さん
（2年生）

高校生の皆様、3回のサロンご苦労様でした。ミニバレー、初めてのトルティーヤ、懐かしいトランプゲームと、どれも楽しく参加させていただきました。

高校生との会話は、進路のこと、趣味のことなど丁寧に話してくれる生徒さんに、とても好感が持てました。最初のサロンでは私達もどうしたらよいか分からず、大人同士で話していましたが、食事やゲームなどで回を重ねるごとに色々と話せることが多くなり、若い人のエネルギーをたくさん頂いて元気になれました。優しい生徒のみなさんに感謝です。ありがとうございました。

サロンほくえいの方々

認知症対応型通所介護Story（ストーリー）と申します。にこワクサロンに全3回利用者の方々と参加しました。

利用者の方々からは、「バレーが楽しかった」「地域の人や高校生と一緒に運動できたことが良かった」「クレープを久々に作り、子どもが小さい頃を思い出した」「札内に住んでいても、近所付き合いが今は無いため同世代の人とお話ができて良かった」などの感想がありました。様々な年代の人と交流できるにこワクサロンは貴重な時間となりました。

ストーリー利用者の方々と職員の金子幸さん

高校生の皆さんが企画した3回のサロンに出席させて頂きました。3回にわたり内容も充実していて、一生懸命に取り組んで頂いたことに感謝しています。全体を通して高校生の皆さんも緊張していたかと思いますが、各テーブルでも、もう少し大きな声で積極的にリードされると会場が盛り上がり楽しくなるかと思いました。

地元の高校生がこうした特別の授業で町の人たちとふれあう機会を作って頂いたことはとても大事なことであり、今後もぜひ続けていってほしいと思います。また、最近高校生が様々なイベントにも協力してくれていますし、日ごろ街中で声を掛けてくれる方もいて、町民と高校生のふれあいが増え思わず嬉しくなります。

坂口利久さん・坂口保枝さん（寿町）

1年生にバトンタッチ♪

地域連携マイプロジェクトは、福祉や地域活性、建築やアート、農業や工業など、様々な分野から生徒が希望するプログラムを選び、一年間活動する取り組みです。

10月より活動をスタートしている1年生の4人は、「将来の進路のために役立てたい」「高齢者やいろいろな世代の人たちと交流したい」など、それぞれの希望を胸に『高校生サロンを作ろう』の活動を選んでいます。

これからの取り組みを前に、「地域の方と仲良くなりたい」「色々な人とコミュニケーションが取れるようになりたい」「サロンに来る人が増えるようなことを計画してみたい」と期待を膨らませる4人は、「仲間ともたくさん協力して、最後には笑ってプロジェクトを終えられるように頑張りたい」と早くもチームワークバッチリ。1年生の新しいチャレンジがスタートしています。地域のみなさんの温かな応援をお願いします。

地域のみなさんとの交流を楽しみにしています。
よろしくお願いします!!

後方左より 村上嘩菜さん、川辺龍瑛さん
前方左より 小林真亜奈さん、高山昴大さん

お宝生活 1

ハートから上は元気元気！楽しみは今も変わらず

～西出英子さんと芳洋会の仲間～

▲芳洋会の皆さん(後方左より加賀田ツヤ子さん、相馬スミ子さん 前方左より 西出英子さん、土井洋子さん)

好きなこと 一緒に分け合って

「準備いいかな。曲流しまーす！」

4人の仲間が集まって民舞を踊る『芳洋会』では、仲間の一人である西出英子さんがかけるCDの音楽で練習が始まります。踊ることが大好きな西出さんは会の仲間と35年のお付き合い。10年ほど前から足の状態がおもわしくなく、踊ることはできなくなりましたが、踊っていた頃と同じように、毎週木曜日に集まって活動を楽しんでいます。

「仲間だもの、西出さんにはいてもらわなくちゃと思いました。踊りに音楽はつきもの。みんなのペースにあわせて曲を流してくれています。身体の向きや手の高さが綺麗に揃っているか、見てくれているんですよ」と会代表の土井洋子さん。

毎回の練習には、仲間の相馬スミ子さんのお迎えで一緒に参加しています。「車で迎えに来てくれるので、毎回参加できています。相馬さんは踊りに誘ってくれた人。今でも温泉や食事にみんなで出かけているんですよ」と西出さんは話され、「みんなに会えるから、毎週楽しみ。何でも話せる場だし、ないと寂しく思う。踊りを楽しみにすると家のことも頑張れます」と、加賀田ツヤ子さんも笑顔で話してくれました。

つながり続けるチカラ

本人曰く、「足を使って踊れなくなったけれど、ハート(胸)から上は元気そのもの。笑顔でみんなと話して、毎回本当に楽しい時間。この場があるから元気でいられる」とのこと。

年齢とともに起こる体調や生活の変化によっては、それまで楽しめていた活動や集まりから遠ざかってしまうことがあります。

それでも西出さんのように、変わらずに好きなことを続けられ、仲間との時間を一緒に楽しめる理由は何でしょうか。

「踊りの会があって、気の合う仲間がいて、一緒に笑って話すことが、私の好きなこと」と西出さん。『好きなことを続けたい』気持ちが、『いつもの仲間の思い』に支えられ、踊れていた頃と変わらずに、今も楽しみを持ち続けることができているようです。

お稽古着をまとって、西出さんがかける曲に合わせて踊りを楽しむ4人からは、お互いへの安心感や心地よさが漂います。コロナ禍でも途切れることなく続いてきた活動は、30年以上の長い時間を一緒に過ごしてきた強い絆で結ばれていました。

お宝生活 2

※ウェルビーイングな暮らし

※ウェルビーイング…心身や社会的なつながりが満たされている状態のこと

札内青葉町で暮らしている中田敬子さん(76歳)は、毎日どこかで誰かと交流しており、ご近所さんとの立ち話しや、地域サロンの仲間たちとの交流、隣町に住んでいる妹さんと一緒に畑作業など、忙しくも充実した日々を過ごしています。他にも、自身の健康作りのため、日課の体操や散歩、庭の手入れも欠かさず行っており、その中で仲良くなったご近所さんたちとも交流があります。一日の終わりには、その日の出来事を日記へ書き残すようにしているそうで、中田さんは「今日はこの人とこんな話で笑ったなぁって振り返ると温かい気持ちになる。毎日色んな人と交流できてめちゃ楽しい」と笑顔で語ってくれました。

仲間たちとの関わり

中田さんは、地域サロンの仲間たちとの時間も大切にしており、毎月第2木曜日に『春日おひさまサロン』の皆さんとお喋りやゲームをして過ごし、毎週土曜日には『ふれあい農園サロン』の仲間たちと一緒に畑作業をしていますが、そこだけで終わらずに、サロンで盛り上がった話題を話して、ご近所さんを自宅やサロンへ誘ったり、収穫した野菜のお裾分けをしています。その他にも、知り合いのお店で出会った方や、昔の仕事仲間たちと今でも一緒に遊んでいるそうです。「外での交流は勿論だけど、家の中でゆっくり話すのも好き。鍵が開いている時は気軽に訪ねてほしい」と様々な方々と楽しく交流をする中田さんは、つながり作りの名人だと思いました。

幸せ＝つながり

コロナ禍では互いに感染面の心配もあり、ご近所さんや仲間たちとのつながりが薄れてしまった時もありましたが、5類に下がってからは少しずつ以前のような交流が戻ってきたそうです。「人とのつながりや支え合いは、私にとって元気付けられるもの。誰かと関りを持てる日々がとても幸せ」と嬉しそうに語る中田さんの姿を見て、この温かな人柄が自身や周りを元気にするのだと感じました。今回の取材を通じて、改めてつながりの効果や大切さを実感することができました。

お宝生活 3

パワフルにこにこ元気の秘訣

忠類共栄町で暮らしている二口英子さん(92歳)は、日頃から自宅での体操や棒を使ったストレッチ、仲間や友人たちと交流をしながら、住み慣れた地域で元気に過ごしています。二口さんは、外出や誰かと交流するのが好きで、よく旦那さんと一緒に様々な場所や集まりに顔を出し、日頃からつながり合う暮らしを送ってきましたが、約4年前に旦那さんが亡くなってからは、家にこもりがちになってしまいました。そんな時、仲間や友人たちから、「顔みたいからまた遊びおいでよ」とお誘いがあり、忠類で暮らしている娘さん達も、「行くなら車を出すから参加してみない」と背中を押してくれたそうです。当時を振り返って、「皆の呼びかけと、娘たちが背中を押してくれた。この歳になっても元気に生活できているのは、皆と娘たちが支えてくれたお陰。感謝の気持ちでいっぱいです」と嬉しそうに二口さんは語ってくれました。

健康寿命は暮らしの中に

二口さんの普段の暮らしぶりを聞くと、自宅内の観葉植物のお世話や体操・ストレッチ、タブレットを使った脳トレ、ご近所さんや友人が遊びに来たり、電話したりしながら過ごしているとのこと。また、毎週木曜日に『忠類ディスコンの会』、毎月第4月曜日には『忠類ふれあいサロン』へ参加し、そこの仲間達と楽しく交流しています。活動中の様子を伺うと、「集まりに顔を出して、皆から元気をもらうんだ」と話す二口さんに対し、皆さんからは、「逆だよ。二口さんを見ていると元気が湧いてくるんだ」とワイワイ談笑され、90歳を過ぎても元気な二口さんの生活には、様々なつながりと支え合いがあることが分かりました。また、「二口さんを見て、元気を貰っている」という声があったように、二口さんは地域を元気にするパワースポットのような存在になっていると感じました。今回の取材を通じて、支え合いやつながりはその人を元気にし、元気な姿を見て励まされる。そんな素敵なつながりが長寿の秘訣になっていることを学びました。

お宝生活 4

居心地ほっこりみんなの我が家 ～和っ家サロン(寿町)～

▲和っ家サロンの皆さんとサロン代表の坂口利久さん(右)、坂口保枝さん(右から3番目)

寿町にある民家を利用して月に一度開催される『和っ家サロン』は、町内に住む15人ほどが民家に集まり、淹れたてのコーヒーとお菓子でお話をしたり、歌やゲームで交流したりできる、誰でも気軽に立ち寄れる地域の居場所です。

思いを広げる

寿町に住む坂口利久さんは、日頃から住民同士が交流できる地域づくりを考えていました。坂口さんの奥様で寿町の民生委員である坂口保枝さんも、身近な所に気軽に集まれる場所があったらいいと思っていました。そして、民家の所有者であり、普段はおもちゃの病院としてボランティア活動をされている高橋章さんも、せっかくの家を活用する方法はないかと思考していたところでした。そこで同じ地域に住むこの方々の『こんな場所を作ってみたい』という思いを話し合い、『身近で気軽に集える場所』について立ち上げに向けた準備を進めることになりました。

思いをかたちに

令和5年の秋、試行的にサロンを開催してみることになり、声掛けをして集まった寿町の皆さんからは、「声を出して笑うことができた」「楽しみがひとつ増えた」「近所の人の顔を見ると安心する」との声が聞かれ、坂口さんご夫妻からは「みんなが集まって楽しんでいることが嬉しい」と、家の所有者である高橋さんも「会場として活用できることは有意義だし、サロン以外でも気軽に立ち寄ってほしい」と、サロンづくりをきっかけに、それぞれの思いが地域の中でかたちになっていきました。

思いが広がる

令和6年4月より毎月一回の定期開催となり、サロンに参加する方々には新たなつながりが生まれています。例えば、同じ町内でも知らなかった人同士が顔見知りになり、誘い合ってイベントへ参加するようになったり、高校生を迎えて多世代交流の場になったりと、和っ家サロンをきっかけに、一人ひとりの生活に楽しみや張り合いがもたらされているようです。

「また来月ね」に込められる思い

「一カ月元気で過ごそう」「また会う次回を楽しみにしよう」と、サロンの終わりによく聞かれるこの言葉には、お互いが程よい距離で気にかけ合う、自然なつながりが感じられます。サロンを離れればそれぞれの生活に戻るけれど、同じ地域に住む人同士、心のどこかで思いを寄せているのかもしれません。サロンをきっかけに生まれるゆるやかなつながりは、健やかな毎日の生活に結びついています。

お宝生活 5

手を繋いで広がる輪

▲新北町西長寿会の皆さん(左から、辻副会長(会計)、大八木会長、佐藤副会長(総務))

札内の新北町で暮らしている大八木宣男さん(80歳)は、新北町西長寿会の会長を務めており、ご近所さんや長寿会の仲間たちとのつながりを大切にすることは勿論、一人でも多くの方々がつながり合えるような地域作りを目指し、日々奮闘しています。大八木さんは定年退職する際、職場の方から「地域とのつながりをもちなさい」とアドバイスを受けたことがきっかけで、『孤立』や『地域とのつながり』を考えるようになったそうです。「地域には独居の方が多い。以前から町内会や長寿会、班長の皆さんからの協力もあり、独居の方を中心とした個別訪問での安否確認・見守りをしています。今後も互いに無理のない範囲で支え合う地域作りを続けて行きたい」と地域への想いを語ってくれました。

つながる仕掛け

毎月1～2回、木曜日の午前中に新北町西長寿会で、『お達者でサロン』を運営しています。ここでは地域の方々が新北町近隣センターへ集い、互いの近況報告やお喋り、歌、ゲームなどで楽しく交流しています。『お達者でサロン』は元々、長寿会の会員のみという条件がありましたが、「一人でも多くの方とつながり、地域の輪を広げたい」という考えの下、新北町西にお住まいの方であれば誰でも参加可能としました。「とにかく外へ出る。誰かと顔を合わせるのが大切だと思う。長寿会に入らなくても良いからサロンへ気楽に参加してほしい。参加者と共に運営し、お互い『気楽』をモットーに負担を少なく、長く続けて行きたい」と語る大八木さん。過去に受けたアドバイスは、日々のご近所さんや仲間たちとの世間話や個別訪問の中での声掛け、きっかけ作りなど、様々な所で生かされており、取り組みの中につながる工夫がたくさんありました。

最近、会員の高齢化や参加人数の減少、担い手不足など、様々な悩みを抱える団体が増えています。活動自体には興味はあるものの、『何かやらされるのではないか』という不安を感じる方が多いそうで、試行錯誤しながら地域の方々に色々な角度からアプローチを行う大八木さんの姿は、とても見習うべきものがあり、つながるためのヒントを学ぶことができました。

お宝生活 6

忙しいのが元気の源

▲右から手塚義春さん、くに子さん

忠類栄町で暮らしている手塚義春さん(77歳)は、忠類体育館の管理人を務めており、業務の中で関わる方や、共通の趣味仲間たちと交流しながら、忙しくも充実した日々を過ごしています。ほとんどの方が電話ではなく、直接予約をしに来るそうで、その時に「最近どうさ」「この前の新しい参加者が増えたよ」など、ちょっとした世間話をしています。また、毎月第3木曜日の午後には、忠類体育館で行われる『健康体操』の先生も務めており、そこで参加者と一緒に体操やゲームなどで交流しており、「毎日必ずどこかで誰かと交流できるのが凄く楽しい。この体育館をもっと使ってもらえたら嬉しいな」と笑顔で語ってくれました。

会えない時期が勿体ない

毎週木曜日の午前中、忠類体育館で地域の方々が楽しくディスコンをしています。この集まりは手塚さんが代表を務めている『忠類ディスコンの会』で、毎回30名程の参加者が集まってきます。手塚さんは、元々パークゴルフの集まりに参加していましたが、「冬場に集まってやれることはないだろうか」と考え、元々道具を持っていたこともあり、室内で出来るディスコンを始めました。当初はパークゴルフの仲間だけでしたが、「ディスコンなら出来る」「友人を連れて来た」という方が増え、活動の輪が広がりました。参加者からは、「脳トレや顔を合わせる機会になっている」「こうやって前に立ってくれる人がいるから安心して参加できる」などの声がありました。休憩中は皆で輪になって、手塚くに子さん(奥様)が淹れたコーヒーを楽しみながら、お喋りをしています。

遊び名人

皆さんに手塚さんのことを伺うと、「なんでも楽しそうに活動する人」「率先して集まるきっかけを作ってくれて、変な医者より手塚さん！」という声が聞こえてきました。くに子さんからも、「なんでもやりたがるから困る時もあるけど、本人がイキイキとしてるからまぁ良いかな」と笑いながら教えてくれました。手塚さんや皆さんのお話から、この忙しくも充実した毎日が手塚さんの元気の源になっているのだと感じました。『忠類ディスコンの会』は誰でも参加可能とのことで、もし興味があれば気軽に手塚さんへ声をかけてください。

編集後記 Editor's Postscript

「つながり合う暮らし」をテーマにお届けしている今号の「まちびと」は、高校生と地域をつなぐ高校生サロンや地域住民で立ち上げたサロンといった多くの人達が係る取り組みから、一人暮らしでもたくさんの人達とつながって生き生きと地域で暮らす個人の取り組みまで幅広くご紹介しました。

ここでは、「まちびと」発行といった広報活動以外にも、幕別町社会福祉協議会（以下「社協」）が行っている「つながり合う暮らし」を広めていく様々な取り組みをご紹介します。

地域サロン・集いの場づくり

地域サロンは、地域の皆さんが自主的に行う世代を超えたつながりを育む場です。地域の人々が気軽に交流できることで、参加者同士が顔見知りになり、安心感や信頼関係が構築されることで、日常の中で助け合いや支え合いが生まれます。また、地域の若者や子どもたちも参加することで、多世代交流が促進され、地域社会全体のつながりが深まることも期待されます。

社協では、地域サロンを作りたい方の支援として、①説明会の開催②お試しサロンの開催③助成金の交付④サロン交流会の実施⑤活動保険の加入などを行っています。また、参加したい方への支援として、身近なサロンのご紹介や初回の同行サロン訪問を行っています。

集いの場の開催

地域サロン以外にも社協が主催する集いの場があります。おしゃべりだけではなく、屋外で作業を通じて交流を深めるふれあい農園やふまねっとサロン、地域食堂の町民カフェMOCOなどを行っています。ふれあい農園は、春から秋までの活動ですが、農作業をみんなで楽しみながら活動しています。農園の活動日は不定期となっていますので、興味のある方は社協までご確認をお願いします。ふまねっとサロンは、幕別地区で幕別北コミセンと保健福祉センターにて月に各1回行っており、ふまねっと運動で体を動かしながら、時には笑い合いながら、楽しく活動しています。町民カフェMOCOは、町内のボランティアさんが中心となって、5月から11月まで工夫を凝らしたお昼ごはんで地域の皆さんをお迎えしています。ふまねっとサロンと町民カフェMOCOの開催日は社協だよりにてお知らせしていますので、ご確認の上、ご都合に合わせてお気軽にお越しください。

つながろマップまくべつ

住民同士の交流の場は、地域サロン以外にも趣味のサークルや体操団体などがあります。そうした活動の場を地図上にまとめたのが「つながろマップまくべつ」です。幕別町内のレクダンスやミニバレー、カラオケなど様々な活動を掲載しています。興味のある方はぜひご参加いただき、つながるきっかけとしてお役に立てれば幸いです。マップは、幕別町役場、札内支所、保健福祉センターにて配布しています。

地域の皆さんと共に

社協では、この他にも自分の身近な地域について考える地域座談会の開催や町内会や地域住民の交流活動活性化のための縁日グッズ・レクリエーション用品の貸し出し、地域の助け合い活動支援として機械除雪サポート事業などの取り組みも行っています。

今回ご紹介した社協が取り組む活動は、どれも地域の皆さんと社協が共に手を取り合って取り組むものばかりです。きっかけづくりや仲を深める活動など、人と交流することの楽しさや喜びを感じられるような取り組みを通じて、「つながり合う暮らし」を町内に広げていきたいと考えています。今後も社協の地域福祉活動により多くの皆様にご関心をお寄せいただき、また、ご参加を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

● 発行日／2025年1月　● 発行／幕別町社会福祉協議会（幕別町新町122-1 保健福祉センター内）
● お問い合わせ／TEL(0155)55-3800　FAX(0155)55-2115